

人権ほつと二年六月号

「ダウン症者はここにいます」

大阪教育大学 特任講師

今枝 史雄

二〇一九年十一月十六日、十七日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで第2回日本ダウン症会議が開催されました。テーマは「わたしたちはここにいます」でした。

みなさんの周囲にはダウン症の方はおられますか？ダウン症は二十一番目の染色体が3本（通常は2本）になることで発症する生まれもった疾患の一つです。さまざまなデータがありますが、一〇〇人に一人の割合で産まれてくるとされており、ほとんどが親の遺伝ではないとされています。近年はコウノドリ第二シリーズ（二〇一七年、TBS系列）で取り上げられました、三月二十一日を国際連合が定める「世界ダウン症の日」（二十一番目の染色体が3本だから）としたりと、話題になっていきますね。ドラマを見た方は「オランダへようこそ」という曲が印象的だったと思います。筆者は幼児から大人

にいたるまでのダウン症の方々の研究に長年携わっています。

さて、この文章のタイトルにもした「わたしたち（ダウン症者）はここにいます」とはどんな意味なのでしょう？ダウン症会議にはこのテーマに対して副題がつけられており、「あたりまえに市民として生きることをめざして」とあります。私はダウン症者の方々の関わりを経て、私たちが生きる社会にはダウン症の方々がたくさんおられるにもかかわらず、周囲の方々がそれに気づかずに、関わり方などを知らないことが多いと思っています。しかし、彼らも私たちと同じように当たり前に社会で生活し、社会に参加しています。彼らへの関わり方とともに、私たちはまずそのことを知るべきだと思っています。

この文章を読んでいただいた方でダウン症のことを知りたいと思っただ方は、公益社団法人日本ダウン症協会のホームページ（<http://www.jdss.or.jp>）などにもわかりやすく説明がされています。ご興味ある方はご覧ください。